

千歳市空港開港100年記念関連事業補助金

Picture Of 171Q

～高校生と大学生で「北海道の”玄関”のある1719番目の町」を考える～



翼に夢を乗せて
次の100年へ



主催：チャイナエアライン、株式会社コエルワ
後援：千歳市
協力：合同会社かくはなす

目次

- Picture of 171Qとは
- 参加者募集について
- イベント当日の様子
- イベントで完成した1719番目の理想のまち
- 参加者アンケート
- 主催者コメント

01

Picture of 171Qとは

100年前の千歳市における”シビックプライド”の形

- 千歳市は、1926年に空港開港をきっかけに、地域の発展が始まり、その後も空港は地域経済や文化に深く関わり、重要な役割を果たしてきた。
- 村民の手で着陸場が作られたという歴史的な背景は、千歳市民の誇りとして息づくことになった。また、「事にあたっては、一致団結する」という”千歳村”の先人たちの想い（スピリットオブチトセの精神）も現代まで、語り継がれている。

一方で...

若者世代*1の地域への関心の減少*2

- 地域活動やボランティア活動へ参加する意向がある学生は約6割程度を占める一方、「地域の交流、つながり」については、**学年が上がるほど重要と感じていないことが明らかに。**
- 千歳市で将来も働きたいと考える高校生の割合は、**約3割。**

一方で...

若者世代が地域の未来を考える機会の減少

- まちとして一定の成熟を迎えた千歳市において、若者たちが自ら**“事を起こす”という機会そのものが減少**してきている。
- 事前相談時に、事務局からは「高校生や大学生は集客が困難」という課題も伺っており、上記世代向けの取組は、100年記念関連事業として**「取組みたいが取組めずに機会提供が手薄だった」と理解している。**

本事業で目指すもの

千歳市の空港開港100年という歴史的意義を未来へと繋げ、これまで機会提供が手薄になっていた高校生・大学生世代に対して、「空港を核としたまちづくり」を通じた新たなリーダーシップの形成を目指す。

Picture of 171Qとは

Picture of 171Qは、
「1719番目のまちを考える」宿泊型のワークショップです。

フィールドワークやレゴを用いたワークショップで
参加者同士の対話を深めながら
私たちの考える1719番目のまちを表現します。

第1回	2023年	札幌開催
第2回	2024年	京都開催
第3回	2025年	千歳開催



02

参加者募集について

募集活動の概要：対象に合わせたチラシの作成

千歳市空港開港 100年 記念関連事業補助金活用事業

100th Anniversary 1925-2025

PICTURE OF 171Q

第1日程 2025.06.27 fri - 06.29 sun
第2日程 2025.07.11 fri - 07.13 sun

申込みは 6/20

北海道の空の玄関口「千歳市」で、まだ地図にない「1719番目のまち」を、仲間と一緒に描く3日間の合宿プログラム。

100年前、千歳で始まった空港の物語。まちを歩き、空港や地域のひとたちと語り合いながら、どのようにまちとして育ち、空港と共に歩んできたのかをひも解いていきます。そこで感じたことや気づいたことを出発点に、それぞれの表現で自由に未来を描きます。夜の宿泊先はお寺。語り合い、共に過ごすひとときを通じて、この出会いが、イベント後も続くつながりへと育っていきます。

新しい切り口でまちづくりについて考えてみたい
いつもと少し違う環境で、本気で語り合える仲間が欲しい
自由に未来について考えてみたい

Let's draw the 1719th town — a place not yet on any map.

会場 千歳寺（宿泊含む）北海道千歳市清水町1丁目14番地
日程 第1日程：2025年6月27日（金）-6月29日（日）
第2日程：2025年7月11日（金）-7月13日（日）
全2日程のうち、ご都合のつく日程にご参加ください。
参加費 無料（千歳市のご協力により）
（宿泊・食事・保険・プログラム費込み）※交通費、2日目昼食代自己負担
定員 高校生：15名 大学生：15名
3日間通しての参加が必須です。宿泊は男女別のお部屋をご用意しております。

▼まちづくり系表面

千歳市空港開港 100年 記念関連事業補助金活用事業

100th Anniversary 1925-2025

PICTURE OF 171Q

第1日程 2025.06.27 fri - 06.29 sun
第2日程 2025.07.11 fri - 07.13 sun

申込みは 6/20

FOR AVIATION STUDENTS

北海道の空の玄関口「千歳市」で、まだ地図にない「1719番目のまち」を、仲間と一緒に描く3日間の合宿プログラム。

100年前、千歳で始まった空港の物語。その歴史をたどりながら、新千歳空港や航空にまつわる現場を訪れ、この地がどのようにまちとして育ち、空港と共に歩んできたのかをひも解いていきます。そこで感じたことや気づいたことを出発点に、それぞれの表現で自由に未来を描きます。夜の宿泊先はお寺。語り合い、共に過ごすひとときを通じて、この出会いが、イベント後も続くつながりへと育っていきます。

航空に関わる仕事を、広い視点から考えてみたい
分野を超えた多様な仲間に出会ってみたい
自由に未来について考えてみたい

Let's draw the 1719th town — a place not yet on any map.

会場 千歳寺（宿泊含む）北海道千歳市清水町1丁目14番地
日程 第1日程：2025年6月27日（金）-6月29日（日）
第2日程：2025年7月11日（金）-7月13日（日）
全2日程のうち、ご都合のつく日程にご参加ください。
参加費 無料（千歳市のご協力により）
（宿泊・食事・保険・プログラム費込み）※交通費、2日目昼食代自己負担
定員 高校生：15名 大学生：15名
3日間通しての参加が必須です。宿泊は男女別のお部屋をご用意しております。

▼航空系表面

DAY1 DAY2 DAY3

自己紹介 / チームビルディング **夕方ごろ集合**

空港開港100年 レクチャー
空港とまちの100年の物語を知り、未来を考えるための準備をします。

地元食材で夕食づくり

みんなで銭湯へ / 千歳寺にて就寝

フィールドワーク
空港や航空関連の現場、まちを探索し、まちに関わる人の声を聞きます。機内食も食べられるかも！？

LEGO®ワークショップ

夕食づくり / 地域で活躍する社会人との交流
地元の食材で夕食づくりをしながら、地域で働く大人と語り合う時間を過ごします。

発表準備
フィールドワークやワークショップで得たアイデアをまとめ、「未来の北海道の“玄関”のかたち」（=1719番目のまち）を考えます。

発表会

振り返り

解散（13時ごろ）

プログラムの内容、スケジュールなどは今後変更の可能性があります。

これまでに参加したひとの声

カタチにするって、面白い
抽象的なアイデアを、立体で表現するのは初めてで、とても新鮮でした。思考が整理された気がします。

違う分野の人と話すのが刺激的だった！
興味関心のちがう人と出会って、知らなかった視点や考え方にたくさん触られた。自分の考えも広がったと思う。

自分の意見をちゃんと聞いてもらえた
初対面ばかりなのに、みんなが真剣に話を聞いてくれて、受け止めてくれた。安心して話せる場だと感じました。

寝食を共にするって、思ったより深い
カレーを一緒につくり、雑談したり。ちょっと不慣れた環境だからこそ、距離が一気に縮まった気がする。

主催：チャイナエアライン・株式会社コエルワ
後援：千歳市
協力：合同会社かほなす

お問い合わせ先：株式会社コエルワ
北海道札幌市中央区南一条西2丁目1-2 木NINARU BLDG. TREEBASE FD-1
会社HP: <https://coeruwa.com/> メール: contact@coeruwa.com

▼裏面

募集活動の概要：千歳市内での告知イベント・高校/大学へのチラシ掲出



▼ちとせまちライブラリーでの告知イベントの様子



▼千歳科学技術大学でのチラシ掲示の様子

千歳市在住の学生の参加を促すため
千歳市内の学校や若い世代の方が集まる場所へ
直接訪問し、イベントの告知を行い、チラシを配布

(参考) チラシ掲示を実施した学校・施設の一覧

学校

種別	学校名	結果
高校	北海道千歳高等学校	チラシ掲示
高校	北海道千歳北陽高等学校	チラシ掲示
高校	日本航空高等学校 北海道キャンパス	テストが近いためNG
大学	公立千歳科学技術大学	チラシ掲示
大学	北海道千歳リハビリテーション大学	チラシ掲示
大学校	日本航空大学校 北海道 新千歳空港キャンパス	CA様より資料提出

施設

場所	施設名	結果
千歳市	まちライブラリー@ちとせ	チラシ掲示、イベント開催
千歳市	千歳市図書館（千歳タウンプラザ内）	チラシ掲示
千歳市	千歳市民活動交流センター「ミナクール」	チラシ掲示
千歳市	CAFEあらじん	チラシ掲示
千歳市	NAMAKEMONO CAFE	チラシお渡し
札幌市	13lab	チラシ掲示
札幌市	大人座	チラシ掲示
札幌市	札幌ゲストハウスWAYA	チラシ掲示
札幌市	喫茶こともし	チラシ掲示
札幌市	sumika Learning Studio	チラシ掲示
安平町	ENTRANCE	チラシ掲示
厚真町	コミュニティスペースイチカラ	チラシ掲示

募集活動の概要：プレスリリースや報道関係者との連携



北海道千歳市・空港開港100年記念事業「PICTURE OF 171Q」をコエルワとチャイナエアラインが共同開催！

～高校生・大学生が3日間の宿泊体験型ワークショップに挑戦。空港を舞台に若者が構想する“次の100年のまち”とは？～

コエルワ 2025年6月23日 15時24分

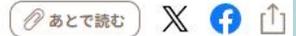


▼6/23PRTIMES

「空港のまち」千歳の未来、ブロック玩具で製作 高校、大学生らワークショップ

柳沼雅貴 有料記事

2025年7月2日 22:04



千歳市



レゴブロックで未来のまちを製作し、北海道の玄関としてふさわしいまちについて話し合う参加者たち =6月29日

▼7/2 北海道新聞

※参院選前で報道スタッフが忙しく実現できなかったが、TV局からの取材依頼もあり。
※当社広報チームによる、メディアアプローチの結果。

募集活動の概要：Web・SNSでの発信

千歳・恵庭の地域情報サイト

MY PLACE MY PLEASURE
まいぶれ 千歳 恵庭

閲覧履歴 探す メニュー

カテゴリ
スクール、体験

タイトル名称
千歳市空港開港100年記念関連事業補助金活用事業
Picture of 171Q

タイトル名カナ
チトセシクウコウカイコウヒャクネンキネンカンレンジギ
ヨウホジョキンカツヨウジギョウピクチャーオプイチナ
イチキュー

開催日
2025/6/27
2025/6/28
2025/6/29
2025/7/11
2025/7/12
2025/7/13
6月27日(金)～29日(日) / 7月11日(金)～13日(日) ※いずれか1日程を選択してください ※3日間通しでの参加をお願いしております ※27日、11日はいずれも夕方頃からのスタートとなります

開催場所【場所】
千正寺

▼地域情報サイト「まいぶれ千歳・恵庭」

株式会社コエルワ @coeruwa_Inc プロモーションする

PICTURE OF 171Q 開催!!
【参加費無料★高校生・大学生大募集!】

北海道・千歳市を舞台に「まだ地図にない1719番目のまち」を描く3日間の合宿プログラムを開催します!
空港や地域を歩き、現場の人たちの思いに触れ、仲間と共に未来を考える3日間。分野や学校の枠を超え、多様な人と本音で語り合いながら、アイデアをカタチにしていきます。

- ★まちづくりに興味がある
- ★本気で語り合える仲間が欲しい
- ★自由に未来について考えてみたい

そんな方におすすめです!

詳細は画像をご覧ください! **
#北海道千歳市 #空港開港100年

▼弊社の各種SNSでの発信

申込はこちらから

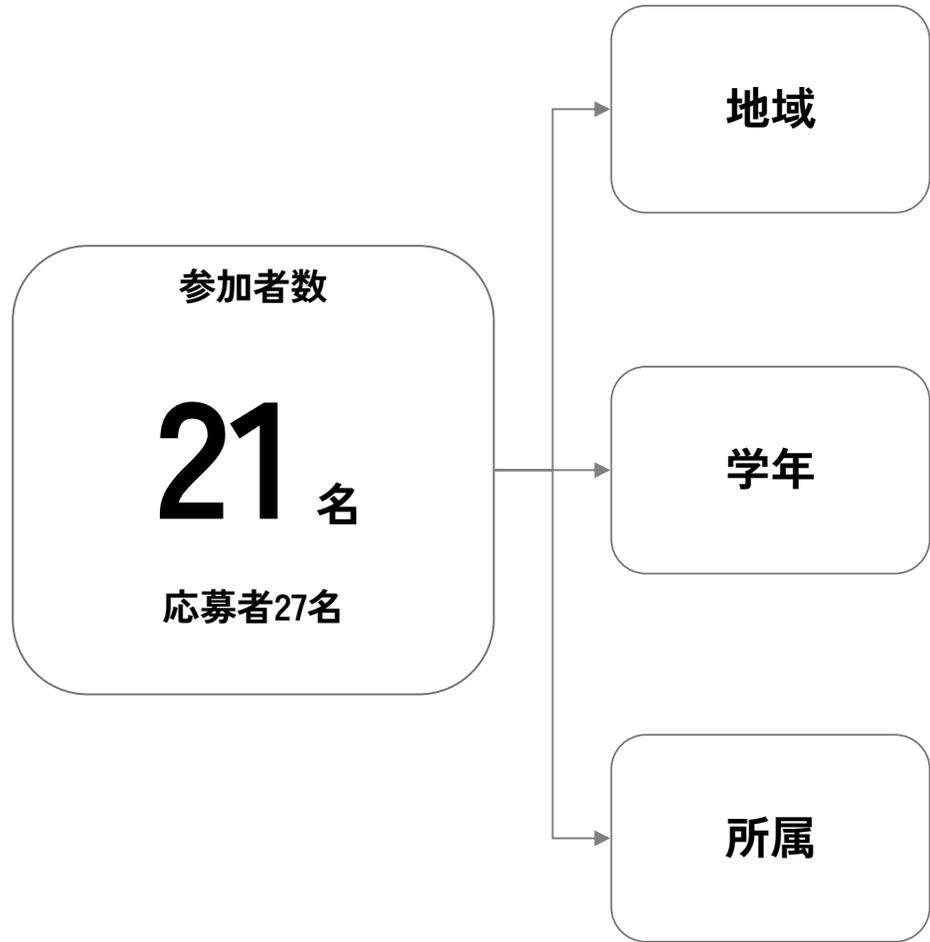
まだ地図にない「1719番目のまち」を描く

PICTURE OF 171Q

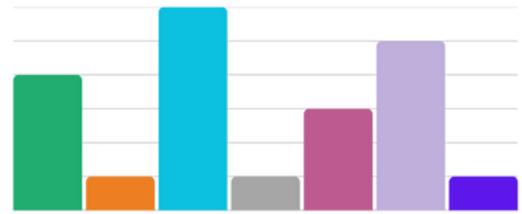
in CHITOSE

▼特設サイトの制作
<https://poq2025-in-chitose.studio.site/>

参加者情報について



東京都 1人
 和歌山県 1人
 北海道 19人
 ※千歳市からも高校・大学・出身者3名の申込あり。



高校2年 4人 大学3年 3人
 高校3年 1人 大学4年 5人
 大学1年 6人 大学院1年 1人
 大学2年 1人

- 札幌平岸高等学校
- 札幌開成中等教育学校
- 札幌藻岩高等学校
- 札幌学院大学
- 北星学園大学
- 公立千歳科学技術大学
- 武蔵野美術大学
- 杏林大学
- 秋田大学
- 日本医療大学
- 北海学園大学
- 小樽商科大学
- 北海道教育大学函館校
- 北海道教育大学札幌校
- 北海道大学

03

イベント当日の様子

16:30 集合

自己紹介をしながら、自然と夕食準備を共に行い、関係性を構築した。



18:00 夕食

メニューは、豚丼、三平汁、ポテトサラダ。100年前の小樽新聞社の歓迎の際にも三平汁とじゃがいも料理が出たとのことで、参加者の歓迎の気持ちを込めてメニューを決定した。



19:30 銭湯で入浴@千歳乃湯えん/末広湯

21:30 新千歳空港の歴史を学ぶ

翌日以降のまちあるきや、理想の町を考える時間に向けて、新千歳空港100周年の事業や千歳市についての前提知識をそろえるインプットとして、100周年記念HPを利用したクイズで歴史を学ぶ時間を設けた。

事前課題（動画の視聴）

<https://www.youtube.com/watch?v=78QD-9NJOM>

<https://snc.chitose.ac.jp/archives/6566.html>



Day 2の様子 (1/2)

7:30 ● 朝のお参り

住職にご協力いただき、千正寺の朝のお参りを一緒に行わせていただいた。

8:00 ● 朝食

簡易的な調理ではあるが、参加者同士でおむすびをつくり、食事を行った。3日間を通して食事を「ともに作り」、「ともに食べる」という関わりを重要視して取り入れた。

10:00 ● LEGOワーク (個人) + まち歩き

LEGOの今回のワークにおける使い方の説明を受けたあと、チームで決めた方針に則って千歳市のまち歩きを実施。それらを踏まえて、「わたしが住みたいまち」を個人で考えて、LEGOで表現・制作した。

13:00 ● 空港フィールドワーク

China Airlineの協力により、国際線の機内準備や飛行機内外の空港設備などについて、詳しく知ることができた。間近で見る飛行機に「100年前に飛行機を見た人もこんな感じに感動したのかな」と思いを馳せる参加者もいた。



15:00 ● LEGOワーク (チーム)

空港フィールドワークを体験して得た気づきや100年前に思いを馳せた経験を通して、午前中に個人で制作した「わたしが住みたいまち」をチームで1つの制作を開始。



18:00 ● 夕食・千歳市の社会人との交流

夕食を食べながら、チームで制作した「わたしが住みたいまち」の現状について、参加いただいた千歳の社会人の皆様に発表しました。ここで発表したものをもとに夕食や交流会で千歳市のまちのリアルを話していただいた。



19:30 ● 銭湯で入浴@千歳乃湯えん/末広湯

21:30 ● 最終発表会に向けて

この2日間で得た学びを踏まえて自問自答、チームで協議しながら「Spirit of Chitose」や「わたしが住みたいまち」についてを考える。宿泊型のイベントで、考える時間の制限がないからこそ、それぞれのチームでじっくりと対話・議論を行う時間を取ることになった。



7:30 ● 朝のお参り

8:00 ● 朝食

10:30 ● 最終発表会

3日間で考え抜いた「理想のまち」をレゴとエッセイを使って発表を行った。チームで1つのものを作り上げるということもあり、意見をぶつけ合いながら、最後には愛着のあるまちとエッセイを作り上げた。

12:00 ● 機内食試食体験

プログラムの最後には、China Airlineの協力で機内食を試食させていただいた。機内食ならではの工夫やこだわりをお聞きしながら美味しい機内食を試食させていただき、プログラム最後の時間をとても良い雰囲気で締めくくることができた。



交流会にご参加いただいた千歳市民の皆様



アーティスト
野沢 宏志(NOJI)さま



北海道くゆる
巳扇 隆人さま



千歳市役所
二階堂 真弥さま



千歳市役所
甲木 洋実さま



合同会社かくはなす
中塚 茜さま



合同会社ハレルモ
米沢 緒子さま



千歳市役所
中村 充さま



千歳市役所
山本 融さま

04

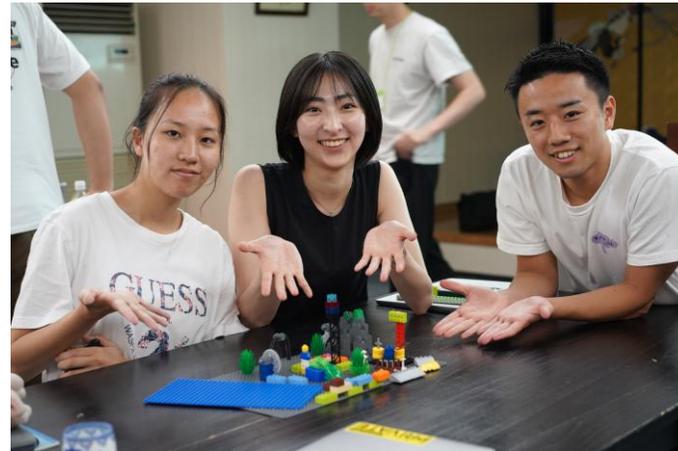
イベントで完成した
1719番目の理想のまち

TermAで、それぞれのチームがLEGOで作成した理想のまち

TermA- 1
渦うずウズ空港



TermA- 2
みずとまわる



TermA- 3
境界にきず/づくまち



TermA- 1 : Spirit of Chitose～渦うずウズ空港～

この街には何もなかった。

誰かが足を止めるような特出した観光資源も、この地域と一生を共にしようと思った人間も。人口は増えてはいるが、その人たちの中でこの地に愛を持って引っ越してきた人は少ないだろう。

また、この街には転勤族が多く、数年で引っ越す家庭も多いのが事実だ。

しかし、この街には挑戦しようとする人がいた。

その人はこの土地だからこそできることがあると言う。

この土地で何ができるのか？その挑戦は成功するのか？そんなことは誰にも分からない。この街と共に生き続けてきた私は、これまで、そしてその先もこの街はこのまま変わらないだろうと考えていた。

刺激が走った。稲妻に貫かれたように。

その一瞬から、見える世界が変わった。

興味をそそられる。おもしろい。気になる。わくわくする。

挑戦したい。「ここなら、挑戦できるかも。」千歳に来て、そう思った。

千歳で挑戦してみた。結果なんて関係なくて、本当に挑戦できた自分に、自信がついた。その自信が、また刺激をもたらす。

興味がそそられる。次の瞬間、また挑戦したいと思った。

また、千歳で挑戦することにした。今度は、千歳で出会った仲間と共に。

仲間と協働して挑戦したことに、また自信が生まれた。

また、刺激が走った。そんな営みが続いていく。

どんどん人を巻き込み、挑戦し、自信を得て、刺激になり、また挑戦する……。

そうやって、千歳を愛する気持ちが形成されていく。

千歳を誇れる自分がある。

渦がどんどん大きくなっていく。

多くの人を巻き込み、大きな渦、小さな渦が、それぞれに営まれていく。

その営みは、永久に続いていく。

10年後のある日。

千歳で生まれ育った小学生の男の子が、まちライブラリーちとせで開かれたトークイベントに立っていた。

「このまちが、大好きです」

少し緊張しながらも、まっすぐに言葉をつむいでいく。

「千歳には、これ！っていう象徴はないかもしれない。でもね、いろんなイベントがあるし、それぞれのことに本気で取り組んでる大人たちが、たくさんいるんです。ぼくも、そんな大人になりたい。だから——ぼくの夢は、千歳でお菓子屋さんを開店することです！」

その場に居合わせたある大人が、にっこり笑って声をかけた。

「じゃあ、まずはやってみなよ。来月のイベント、一緒にお菓子出してみたら？」

男の子の目が一瞬、大きく見開かれる。

驚きと喜びと、ほんの少しの不安。でも、すぐに「やってみます！」と力強くうなずいた。

その光景を、まちライブラリーの片隅から見つめていたのは、86歳の警備員の男。

茨城から千歳に移り住んで、もう60年が経つ。

コーヒーをすすりながら、ふと、つぶやいた。

「……いいまちだな」

彼は思い出した。最近、孫が進路に悩んでいると言っていたことを。

「孫も千歳に来たら、変わるかもしれないな」

そうつぶやいた声には、どこか希望がにじんでいた。

TermA- 2 : Spirit of Chitose～みずとまわる～

千歳川の見える場所で僕は生まれ育った。
誰かから聞いたが、この町の水は綺麗らしい。
そんなところを横目に、この場所を離れ、高いビルが立ち並ぶ場所を求めていった。

その場所は、日々新たな建物がたち、人々は忙しく暮らしている。
暮らしはどんどん便利になっている。ここにいたらなんでもある、
なんでもできる気がする。カッコいい服や新たなテクノロジーが詰め込まれたものをたくさん買う。こんなに充実した場所があるなんて！贅沢だな！

そんなある休日、呼ばれた。

母：「ご飯食べに帰っておいで」

僕：「え～、わざわざ戻るのかよ。めんどくせーな。」

とかく言いながら僕は実家に戻った。

母：「ごはんができるまで、もう少し時間かかるから！」

僕：「なんだよ、おっせーな！まあいいよ、ちょっと外出てくるよ」

(外を歩きはじめる) (今まで聞いたことのない鳥の音が聞こえてた。なんだろう?)

(声に導かれていくと、家の近くを流れる川の側に辿り着いた。)

(川の側に遊歩道があった。ちょっと行ってみよう)

(あれ、なんだろうこの空間? → ご飯ができる時間も忘れて栈橋を進んだ。)

(この時間、贅沢だな。)

TermA- 3 : Spirit of Chitose～境界にき^ずく^づまち～～

今日も仕事が終わった金曜日、
普段はエゾシカを獲るハンターを育成する会社を経営している。
明日は休みなので家に帰って同僚とBBQをしよう。
山中に帰り、時刻は午後5時。火起こしをはじめ、ビールを開ける。友達のゆうせい、
こうせいの家族が到着して、みんなで肉を焼き、馬鹿騒ぎ。山上から街を見下ろして、
この街を愛しながらまたビールを開ける。

朝起きて、ご飯を食べて、メイクをして、電車に乗る。いつものように青葉公園に行く。
昨日ミエさんやおおいくん達とバレーができて楽しかったな。今日は誰に会えるかな。
何をしようか。・・・・・・あー今日も楽しかった。
初めて外国人の友達に会って、英語の勉強ができたのは予想外だったな。
明日はちょっと特別な日。
普段森の奥に住んでいる人も、毎日のように「ちとせのわ」に来ている人も、皆が青葉
公園に集まって、一緒にご飯をつくる。
明日も楽しみだ。帰り道、森の方から美味しそうな匂いが漂ってきた。

この街には、大きな線路が通っている。僕は毎朝そこから荷物を下ろす、運ぶ。
今日もいつも通り荷物が届き、町中を巡る。それが僕の仕事なのだ。
僕はこうして荷物を運んでいるが、運んでいるのは荷物だけではない。
温泉を営む田中さん、猟師の加藤さん、最近できた工場にはたくさんの人が働いていて、
町の大きな支えであり、希望だ。

僕は今日も向かう、もたらず。この街にはたくさんの人が住んでいる。僕は人々に希望
をもたらずこの仕事に誇りを持っている。この街が続くことを願うばかりだ。

TermBで、それぞれのチームがLEGOで作成した理想のまち

TermB- 1 このままでいいかも



TermB- 2 ゆるnection



TermB- 1 : Spirit of Chitose～このままでいいかも～

このままでいいと思う？
このままでいいと思う

そうだね、とはいえ、もうちょっとみんな笑ったほうがよくて、。

.....

「はいっ！」
「いまね、せっかく集まったんだし、みんなが思うこのまちの地図を完成させてみよう。
自分たちが普段何気なく通り過ぎてるかもしれないけど、歩いたり、いまの気持ちをよく見てみるとヒントがある気がする」

あれ、明日、早いんだっけ。
明日、朝早いんだっけ。ってさっきも考えたな。はい。
これ、こんなんだっけ。きたな。

好きなもののあるまち、人の集まる場所、私だけの秘密基地、
振り返ったら見えなくなって、私は道を歩いていたこんなにごつごつして、建築基準は
大丈夫か？
じゃあまず衛星写真で見てさそれぞれの気になるスポットを出し合うべきじゃない？
だと思ふのさ、じゃあ何しますかっていったら、それぞれ核というか軸みたいなのが
あったしょ、それで、一個まとめるために、そう、両方融合点があるから、

.....

歩いてよーっと。川沿いに歩くと、ちょうど遠くのほうで祭りの音が聞こえる。
一本外を歩いても、内を歩いても、なんかな。いいな。声高に歌ってみても、いい感じ
に溶け込む。いい感じにばかになってる。

「なんかあった？」 「いや、なにも」 あっち。
少し奥まわって、いい角度からチラチラ見ると、語り合ったり、
しっぽり飲んでたり。楽しく、楽しかったらいいよな、いいなやっぱり。
まあでも、そんなのはよそにガキは最高を享受してるもうちょっと、考えてみよう。

考えるっていうか、やってみよう。

覇気のない駅口を通り、なんてことない構内を進む。
どんなまちかって言われてはじめて気づく。年数は経っていても人の手は
行き届いていて、駅としての気取らなさが心地よかったりする。

このままでいいと思う？
このままでいいと思う
このままでいいかも？
このままでいいかも

TermB- 2 : Spirit of Chitose～ゆるnection～ (1 / 2)



翼に夢を乗せて
次の100年へ



2024年秋、僕は新千歳空港に降り立った。
電車の揺れに乗られ更に進むと、そこには自然豊かなまちが広がっていた。
心地よい風に揺られる草花の香りは、どこかこれまでと違う。

「あんた、どこから来たのかい？」

聞こえるはずのない言葉に振り向くと、そこには何十年もこのまちに住んでいるのであろうおばあさんが、杖をつきながら立っていた。

転勤で新天地にやってきた僕に、環境の変化を受け入れる心隙はなかった。
軽く会釈をし、引越し業者の待つ新しい自宅へ向かう。

トラックが止まる自宅に到着すると、またもや業者から声をかけられる。
今日は何時に起きたんだ、お昼は何を食べたのか、休日は何をしているのか...。
今後会うこともないだろう奴になぜこんなどうでもよいことを話さなければいけないのか。おばあさんという引越し業者といい、僕の中にズカズカと入り込む人々に煩わしさを感じた。

引越し作業が終わり自宅に1人になると、今まで感じたことのない胸騒ぎに襲われた。
新しい環境に慣れないのだろう、と思い、スマホを開きゲームを始める。

しばらくゲームを続けていると、急にインターホンが鳴った。何かかと思いドアを開けると、見知らぬ親子が立っていた。

「うちの畑でとれたさつまいもが余ってしまったの。よかったら引越し祝い代わりに貰ってくれるかしら？」初対面の僕に野菜を押し付ける母の隣には、ただ母の服を掴みこちらを見つめてくる小学校2年生ほどの娘。

「結構です。」冷淡に言い去った僕は、ゲームを再開する。

日が暮れ、そろそろ腹が減ってきた。
適当にコンビニで済ませよう。そう考えた僕は、スマホだけ持ち家を出る。
コンビニ前で、また先ほどの親子に出会った。

「さっきはごめんなさいね。もしかしてさつまいもが嫌いだった？何か他に食べられる野菜はある？もうすぐゴボウが収穫できるのだけれど、どうかしら？」
またもや現れた煩わしい住人に、僕は嫌気がさした。「そういうのいいので。」

その場を立ち去りコンビニに入り、お気に入りの焼きそばを買い、自宅に戻った。
焼きそばからは、引越し前と変わらぬいつもの香りがする。これこそが幸せだ、と思えばすすめた。
だが、空になったプラスチックの容器は、これまでと明らかに違っていった。
これ以上食べれない程満腹なはずのお腹と、どこか物足りない心が混じり合う初めての状況に、僕は戸惑った。

次の日の朝、温かい日差しと窓からの隙間風に起こされた。必要以上に賑やかな外の物音を鬱陶しく感じているうちに、物音が静まっていった。僕は、音のなくなった空間を、組み合わせられないレゴのようにもどかしく感じた。

また物音が聞こえると思い窓の外を眺めると、そこには子どもたちの姿があった。
浴衣が着崩れることさえ恐れない子どもたちは、寺の方へと走っていく。
子どもたちを目で追いかけている僕は、知らず知らずのうちに笑みが溢れていた。
これまで感じていた新天地への戸惑いやもどかしさを忘れ、吸い込まれるように寺へと向かう。

TermB- 2 : Spirit of Chitose～ゆるnection～ (2 / 2)



翼に夢を乗せて
次の100年へ



寺には、縁日が立ち並んでいた。
決して大々的とは言えないし、僕の好きな焼きそばすらも売っていない。

「ごめんなさいね、焼きそばは出していないけれど、たこ焼きはいかが？
今度ゴボウ持って行くから待っていてくださいね。」コンビニで出会った親子の出店があった。
あんなに一瞬だったのに、僕がコンビニで焼きそばを買ったこと、ゴボウを渡すと言ったことを、母親は全て覚えていた。

「お兄さん、ポテトフライも買っておゆき」
母親に返事をする隙もなく、どこかで出会ったことのあるおばあさんに声をかけられた。
「そういえば、あんた結局どこから来たのかい？」
そうだ、僕がこの地に降り立ってすぐに声をかけられたおばあさんだ。

「兄ちゃん、こっちも寄ってくれよ」
またもや声をかけられたかと思い振り返ると、引越し業者だったおじさんが精魂込めて焼き鳥を焼いている。初めて見る僕のことを鬱陶しいほどに歓迎しズカズカと入り込んでくる住人たちの声は、やはり静まらない。

だが僕はようやく、この鬱陶しさの正体に気付く。
スマホの反射に映し出された覇気のない顔とは相反するカラフルなピースが、新しく出会った住人たちによって僕の心の中に入り込んできた。

ようやく僕は、自分の心の豊かさが描かれ始めたことに気がついた。
でこぼこで崩れやすい僕の心に、僕自身と住人たちによってピースが追加されていった。

立派な縁日もなければ、豪勢なデパートもないこのまちにあるのは、住人たちの心から溢れ出す未来への展望だ。

隣町と繋がる線路や川から流れ着く、まちというフレームにはまる新たなピース。
散歩をする度に見つけるまちの新たな魅力の発見。
湧き出た夢と希望から成長するまち。
自然のあるがままに暮らす動物たち。
細く長く脆く、それでも確かに積み上げてきた住民1人ひとりの人生。

過去から未来、未来から過去へと循環するこのまちは、小さなもの、何気ないものが積み重なっている。未完成でゴールの見えないこのまちは、原石のように輝く力を秘めている原石のようだった。

息を続け成長を止めない山のように、ぼくたちのまちは変わり続ける。
川の流れのように不安定で煌めくなぼくたちの希望は、すでに分岐しはじめている。
だが、ひとつの水源としてあるぼくたちの心の奥底に共通するのは、このまちへの郷土愛だ。
ぼくたちはいつでも繋がっていて、共に生きている。
ぼくたちが創造するこのまちは、永久に未完成だ。
ぼくたちは、これからも自分とまちのピースを集め、繋げていく。

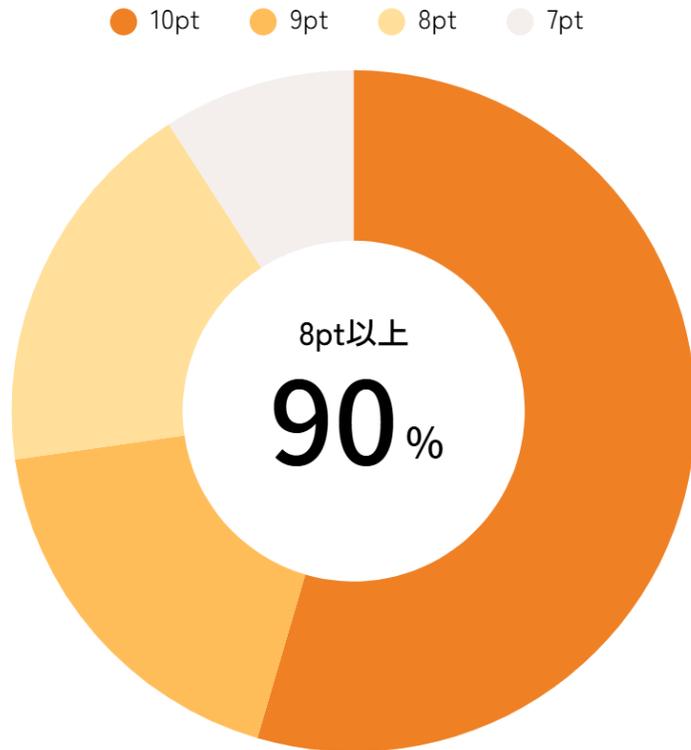
05

参加者アンケート

アンケートサマリと運営事務局にて考えたこと

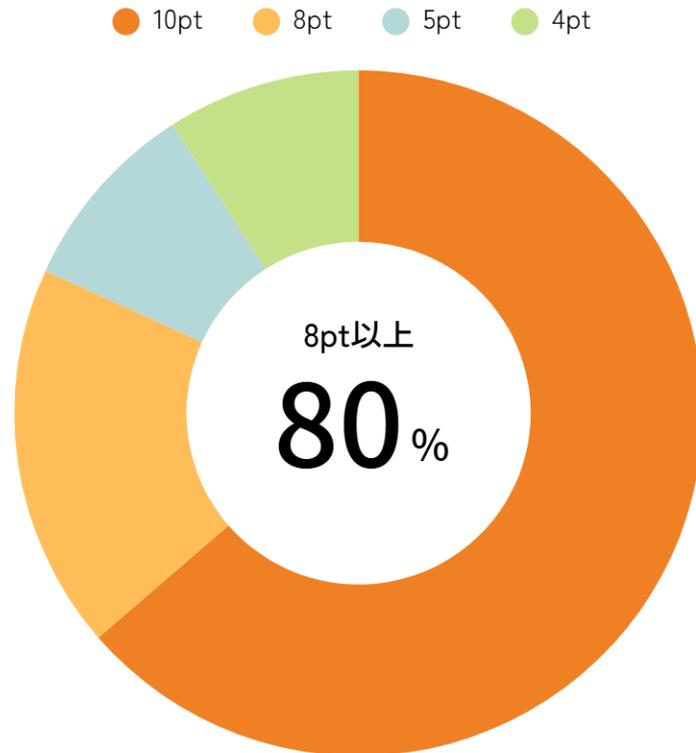
項目	満足度	参加者の声サマリ	事務局にて考えたこと
プログラム	9.2	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムの内容が新鮮で楽しく、千歳のまちについて深く考える時間にでき、愛着が湧いた。 ● 空港見学のワークショップでは、機体を間近で見学したり、滑走路に降りて業務視察が出来たことは、貴重な体験で面白かった。 ● 千歳のまちの方や他参加者との交流を通して、「人生に刺激を受けた」。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育事業会社である当社とチャイナエアラインの共催だからこそ、普段見ることのできない空港の中を見る経験と、自分たちで調べてまち歩きをすることや千歳の社会人の話を聞く経験の両方を実現できた。これによって、“空港だけでない千歳市”を、参加者がとらえることができたと思う。 ● 一方で、「空港」と千歳の社会人の考える「まちづくり」の接点があり話題として出てこなかったこともあり、結果として最終成果物において「千歳のまちと空港の関係づけ」が行われにくかった可能性がある。 ● これまで千歳市で行われたまちづくりイベントは1日のみの開催が多かったと伺っているが、合宿型のイベントで行うことによって、参加者間の葛藤やイベント後も継続する交流が発露しやすくなるということも改めて実感した。
プログラム外 (生活)	8.5	<ul style="list-style-type: none"> ● 出身地域や学校がバラバラな中でも、共同生活を通じて自然なコミュニケーションが生まれ、参加者一人ひとりの「人間味」や「面白さ」に触れることができて楽しかった。 ● 一方で、自由時間が少なく、千歳のまちを回り切れなかった事を残念に感じている参加者もいた。今後千歳に来た際に色々と回ってみたい、という声も。 	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムが濃密だった中で、(プログラムの設計上、)「余白」の時間の確保が十分にできなかった。一方で、自炊・銭湯・雑魚寝といった、ひとつの空間を共にしながらの共同生活を通して、参加者同士の交流が促進され、一定の満足度につながった。 ● 今回は最終発表会に向けて参加者同士が議論を交わす中で、本音でぶつかり合い、共に課題を乗り越え、達成感や絆を感じられていた様子だった。 ● 余白を重要視することにより、千歳のまちづくりに関わる高校生・大学生の関係性の深まりを重視するイベントを目指すか、まちづくりとしてのアイデアや価値観が創出されることを重視するイベントを目指すか、といったところは、今後の開催が見込める場合は検討したいポイントだと考える。
会場	9.1	<ul style="list-style-type: none"> ● お寺の広さと快適さが好評だった。Wi-Fiやプロジェクター、厨房の設備なども整っており、作業・自炊の両面で非常にスムーズだった。 ● 駅やコンビニ、スーパー、銭湯など宿泊イベントに必要なリソースにアクセスがとてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場を提供してくださった千正寺さんのご協力もあり、非常に快適で連帯感や満足度を高めることができた。また、無償でお貸しいただいたことで、参加費を無料に設定でき、特に高校生の参加のハードルを下げることができた。 ● 大人数の調理器具がそろっていることや、プロジェクターやスクリーンと言った施設が充実しており、イベント実施がスムーズにできる環境だった。千歳市内の他事業でも、地域とのつながりを持ちながら低コストでの運営を行いたい団体には利用を推奨したい。

参加者アンケート：プログラム満足度



- 今回初めてPOQのプログラムに参加させて頂きましたが、内容(まち歩きや空港見学、LEGOワークや期間など)が新鮮で楽しかったし、スタッフの方々を始め、他の参加者や地元の方との出会いがとても刺激的でした。
- 千歳のまちを見に行く、考えるのバランスがよく、有意義な三日間になりました。
- 学校にはいないような個性ある人達と交流できてとても満足だった。人生に刺激を受けたようだった。
- 終わった後、千歳市やチャイナエアラインの皆様をはじめ、関わっていただいた方々にどれだけのものをお返しできたでしょうか、と心配になっていました。”この3日間は「無駄」な時間である”という話から始まったことを思うと、3日間仲間と好きなようにまちや未来について考えられたことが、もう満点なのかもしれません。
- 同じ年代の人と一緒に何かを考える機会自体が少なかったため、とても貴重な経験になりました。それに加えて、社員の方やインターンの方とお話しする中で、周囲との関わり方や自分自身の思考を含め、全体的に自分に足りていない点を改めて認識することができました。その結果、自分の中で一段階レベルアップできたという実感があります。
- とても濃厚な3日間でした！強いて言うなら、あの3日では完全に千歳を理解できたわけではないから、もう少し千歳について知ることが出来る時間があれば良かったなと思います

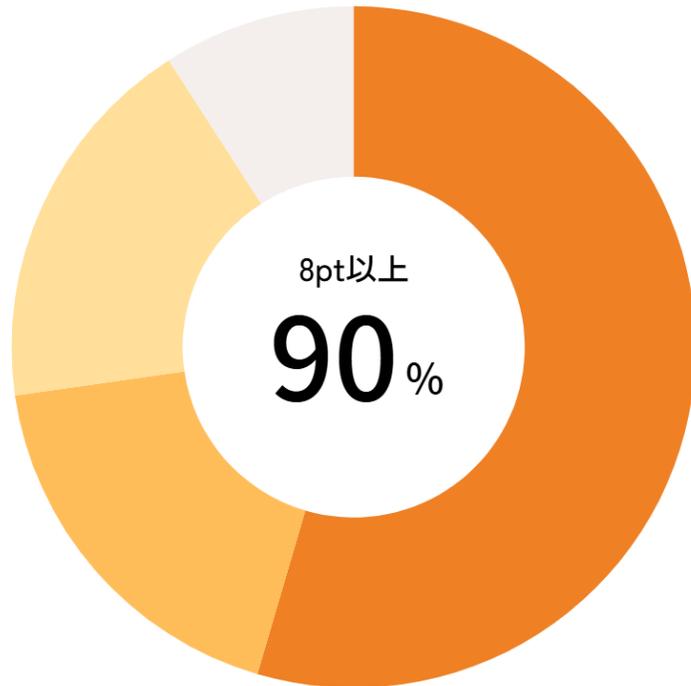
参加者アンケート：プログラム外の満足度



- 皆で一緒にご飯をつくって、一緒に「いただきます」をできることにとても価値を感じました。ありがとうございます。
- はじめましての人ばかりで仲良くできるか不安でしたが、みんなで料理をしたり共同作業する中でコミュニケーションがとれてよかった。
- 銭湯が思った7倍くらい広くて綺麗だったし、みんなで雑魚寝したり、人が握ってくれたおむすびが最高でした。
- 女子部屋で夜にお話しできたのが楽しかったです！ワークショップも楽しかったけど、ワークショップと関係のない、それぞれのプライベートな話も聞けて、一気に打ち解けられました。修学旅行に来たような感覚で、懐かしく感じました。
- 完全な好みにはなるが、丸々オフの時間が一定数あるとさらに集中しやすかったと感じます！自由時間などがあれば、千歳のまちをもっと自由に散策できたかなと思いました。また千歳に来た時に、気になるところを回ってみたいと思います！
- 何不自由なく金銭的負担もなく泊まらせていただけて大変満足しています。

参加者アンケート：会場の満足度

● 10pt ● 9pt ● 8pt ● 7pt



- とても大きなお寺で驚きました。寝る部屋や作業する部屋も広くてとても快適に過ごせました。
- 厨房の設備がとても整っていて、みんなで自炊をする時も困ることがありませんでした。大きな鍋や、たくさんの調理器具が用意されていて、**大人数で調理するにも十分すぎる設備**でした。
- 朝はとても眠かったけれど、みんなでおまいりができて、すっきりした気持ちで1日をスタートできました。住職さんのお話しも日々違って、千正寺と千歳の歴史も知ることが出来て面白かったです。住職の奥さんもとても明るく良い方だったので、**安心して宿泊することができました。**
- WiFiも整っていて、無料で貸して頂けたので、快適に作業することができました。**プロジェクター**もあって充実しているなあと思いました。
- 駅からは少し遠かったけど、車で移動することが多かったし、外も暑くなかったので気になりませんでした。コンビニや銭湯も割と近くにあって、**アクセスもいい方だ**と思いました。
- お寺に来ていたボーイスカウトの方からブロッコリーをいただきました。面識もない僕らにたくさん野菜を分けて頂いて、**千歳の方のあたたかさ**を感じました。ブロッコリー美味しかったです!!!

06

主催者コメント

主催者コメント



このたびは、千歳市様より多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本事業は、開港から100年の歩みを振り返るとともに、次の世代へとつなぐ、大きな節目の機会となりました。

千正寺様をはじめ、多くの市民の皆さまならびに関係機関のご協力のもと、全日程を無事に終了することができましたこと、心より御礼申し上げます。

本事業を通じて、千歳空港および千歳市の持つ地域的・歴史的な価値をあらためて認識するとともに、千歳市との連携の重要性を再確認する貴重な機会となりました。

チャイナエアライン 札幌支店旅客営業課 後藤 弘一様



今回のプログラム期間中、参加いただいた大学生・高校生には「無駄な時間」というワードを伝える場面が何度もありました。

肩の力を抜いて、未来のまちを考える。一見すると「何につながっているかわからない」営みだからこそ、本質的に大切なことに向き合うことができる、と感じています。

今回はその営みにSpirit of Chitoseという価値観が加わったことで、より創造力に幅が生まれたような気がします。

これまでの100年と、そしてこれからの100年。POQ千歳がその「接着点」としての役割を少しでも果たせていれば幸いです。

この素晴らしい時間は、千歳市様の多大なるご支援・ご協力と、また千正寺様、そしてお力添えいただいた千歳市のみなさまのお陰です。

改めて心より御礼申し上げます。

株式会社コエルワ 代表取締役 阿曾沼 陽登



翼に夢を乗せて
次の100年へ



CHINA
AIRLINES



株式会社
コエルワ